

Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU



### H. I. T. Communication



#### **CONTENTS**

#### さくら幼稚園

**p2-3** なかよしさい/卒園児からのメッセージ/ようちえんってこんなところ/とらんぽりん

### 八戸工業大学

- p4-5 防災技術研究展/マチナカ公開講座/防災教室 支援事業/自動車技術独創アイデアコンテスト /50周年ポスター展/環境教育出前講座
- p6-7 卓球部/野球部/バレーボール部/ETロボコン /サークル紹介/インド染織研究家講演/科学 の祭典/オープンキャンパス開催/学内インキュ ベーション/保護者懇談会/主な予定/2023年 度入試日程

#### 八戸工業大学第一高等学校

**p8-9** 体育祭/体験入学/部活動体験見学会/TECH ツアー

#### 八戸工業大学第二高等学校

**p 10-11** SDGs 講演会&ワークショップ/ユネスコスクール・キャンディデート校に/ウクライナ支援/異文化理解/fairtrade/大学見学会/エネルギーパーク見学/ジオパークツーリズム/HIT-SSP/途上国に文房具を送ろう/医療学概論出前講義

#### 八戸工業大学第二高等学校附属中学校

- **p12** 第1回校外学習/第10回科学の甲子園ジュニア /プログラミング教室とものづくり体験教室
- p12 寄付のお願い/理事会·評議員会



Mobile & iPhone & Android ◀◀◀モバイルサイトヘアクセス



# -Message

# 大好きなさくら幼稚園とともに

25年前、毎日うきうきしながら通った さくら幼稚園。広い園庭で裸んぼうで駆け 回って遊びました。大人になった今だから、 こんな素晴らしい環境はなかなかないなと 実感しています。その後、私は保育教諭を 目指し、教育実習をさせて頂きました。素 直で可愛らしい子どもたち、優しく指導し て下さる先生方に囲まれ、楽しく充実した 実習を行うことができました。将来、子ど もが生まれたらこの大好きなさくら幼稚園 に通わせたい!と思うようになりました。 そして現在、保育教諭として働きながら娘 をさくら幼稚園に通わせています。娘が毎 日幼稚園での出来事を話してくれる度、自 分の幼稚園時代を思い出します。娘を笑顔 で受け入れ、大切に保育して下さる先生方 に感謝しています。私も先生方のように笑 顔が溢れる保育教諭でいられるように、先 生方からパワーをもらいながら頑張ってい



秋山 裕美 たんぽぽ組 あきやま ゆの ちゃんのお母さん

### ● 😂 😂 ようちえん



「すいかおいしいね、









「どんな もようかできるかなり」

# S QQ QQ QQ T W TO S

#### 満3歳いちご組 8月29日 (月)

今日は海浜保育。行きの バスの中でずっと歌を歌っ ている子もいるなど楽しみ にしているのが伝わってき た。種差に到着。手をつな いで並んで歩くように促し たが、手を放そうとしたり、 遊べる範囲を繰り返し伝え るが電車が見えると駆けて 行ったりした。芝生の上を 駆けまわっていたせいか帰 りのバスではぐっすり眠っ ていた。園に帰ってからも

ずっと「うみ、た のしかったね」と 話していた。いつ もと違う楽しさを 味わったようだ。

### 年少組 9月9日(金)

朝「ほんとうは、えんそ くだったよね」と話した子 がいたので、一斉保育を切 り上げ「遠足ごっこをしよ う」と話すと「えー?!なん でよー! ようちえんでは、 できないでしょう」と子ど もたち。敷物の上に自由に 座らせ給食を食べると「ほ んもののえんそくだ!」と 喜んでいた。「おやつは外で 食べようか」と言うと「えー! またえんそくだ」と大盛り

たのしいな~♥」

上がり。芝生の上の敷物に

座って「おいし いね」と笑顔で 食べる子どもた ちを見て保育を 工夫する大切さ を感じた。

#### 年中組 9月7日(水)

作品展に向 けて人形作り をした。昨日 より難しい作 業で時間はか かったが、最 後まで自力で 頑張ろうと奮

闘していた。飾って家族に 見てもらいたいという意識 があるからか、いつもより さらに丁寧に作ろうとして いると感じた。完成したも のを見せながら「○○ちゃ んのここがきれいだね!」 と感想を話していると「よ うふくがおしゃれ!!」「○ ○くんにそっくり!!」など お互いに認め合い、完成を 喜ぶ姿が見られた。

#### 年長組 8月25日 (木)



[ミッキーみたいな じゃがいもだ~」

今日は、春に植 えたじゃが芋掘り の日。一斉に掘り 始めるが、ただた だ深く掘ったり、 浅すぎたりして 「ないない」と言 う子がいた。助言

をしたり、ひとつ見つけて あげたりするとそれまで探 せなかった子も見つけるこ とができ喜んでいた。何と かすべてを掘ることができ た。お土産のじゃが芋は、 大きい芋を真剣に選んで自 分で袋に入れていた。自分 たちが植えて掘ったじゃが 芋を持って帰れる喜びで、 重さも何のそのという感じ だった。

# 防災に関する取り組み

#### ■防災技術研究展■

9月の防災月間にあわせ、番町サテライトキャンパス(ば んらぼ)を会場に「防災技術研究展」(8/26~9/11)が 開催された。本学地域産業総合研究所が主催し、防災技術研 究部門が研究成果をポスターにまとめて紹介した。八戸市の 津波ハザードマップや防災備蓄品なども展示され、多くの市 民が来場した。

8月27日、展示と連動する形で公開講座が実施された。講 師を金子賢治教授(地域産業総合研究所所長)、片岡俊一教 授(弘前大学大学院地域共創科学研究科長)が務めた。金子 教授は「地盤の見え方・考え方 - 八戸の地盤」と題し、地盤 の見方と揺れやすさなどを解説した。片岡教授は「八戸地域 の地震リスクーと題し、青森県が発表した被害想定をもとに、 八戸地域の揺れの強さと被害について説明した。

これらの取り組みが、市民にとって防災意識を高める一助 となれば幸いである。





#### ■マチナカ公開講座 開催報告■

9月の公開講座は、防災をメインテーマに実施された。

◆9/3 自分の命・大切な人の命を災害から守るには? 防災研究と被災経験より~

講師:大学院工学研究科博士後期課程2年 堀合 紳弥

◆9/4 自然災害-○○年に一度って何? 講師:工学部 教授 竹内 貴弘

◆9/10 白銀大火を考える

講師:工学部 教授 工藤 祐嗣

◆9/11 ① 地震の多い八戸での地震対策

② 液状化現象の発生メカニズムと対策工法

③ どんな地震にも耐えられる構造

講師:八戸工業大学名誉教授 塩井 幸武

◆9/17 ディープラーニングによる AI 講師:工学部 准教授 島内 宏和





### 防災教育の推進 ~八戸市小中学校での取り組み~

本学では、八戸市教育委員会の依頼により八戸市内の小 中学校に教員を派遣し、防災への意識を高めてもらう「防 災教室支援事業」を行っている。今年度は、これまでに4 度の防災教室を開催した。

- ◆7/2 島守中学校
- ◆10/12 白銀南中学校 地域防災の担い手としての中学生

講師:感性デザイン学部 准教授 安部 信行

◆8/30 轟木小学校

自然災害と防災を科学する

講師:工学部 教授 加藤 雅也

◆9/5 町畑小学校

自らの命を守るために~地域安全マップづくりを通して~

講師:感性デザイン学部 教授 宮腰 直幸



また、八戸市教育委員会が市内の小中学校に配布してい る「八戸版防災ノート」について、金子賢治教授と宇野あ ずさ講師が作成アドバイザーを務めた。冊子内のイラスト は感性デザイン学部3年の佐藤亜衣子さん(八戸工大二 高)、胡景瑛さん(四川省標榜国際カレッジ)が担当して いる。





### 自動車技術アイディアコンテスト、全チーム入賞!

工学科機械工学コース自動車工学プログラム4年生4チー ムが、6月4日に実施された「自動車技術会東北支部主催第 32回自動車技術独創アイディアコンテスト」大学・高専・専 門校部門に出場、2チームが優秀賞、2チームが佳作と全チー ムが入賞を果たした。過去にも最優秀賞や優秀賞を受賞して いるが、出場全チームが入賞したのは初めての快挙である。

各チーム、放課後や空き時間を活用しプレゼンテーション 用のポスターを作成、本選はコロナ禍のためリモートで行わ れた。PDF を画面共有してのプレゼンテーションは、対面 で行われるそれとは違った難しさがあり、素晴らしい出来の ポスターも、画面になると説得力に欠けた。プレゼンテーショ ンも同様に発表者の表情や動きが伝わりにくい。ポインター の動かし方、説明部分の拡大操作、何度もポスターを作り直 し、リハーサルを繰り返した。アニメの CG 製作用ソフトを 駆使し、より良い表現を目指すチームもあり、みんな真剣で あった。

自動車好きが集まる当プログラムだが、今年の4年生たち は特にそれが顕著である。進路は、国土交通省所管の自動車 技術総合機構、自動車メーカー、自動車メーカーの競技車両 開発部門、東京モーターショーに出展するコンセプトカーな どの設計開発をする企業、地元企業で自動車整備士になる者 など職種は多様である。自動車関連企業に進む社会人となっ た彼らの活躍が楽しみである。

工学部 准教授 浅川 拓克



創立50周年を迎えた 今年、本学を紹介する移 動ポスター展が開催され た。作成したポスターは 約60枚、開学から現在ま での歴史や教育・研究、 学部・学科・コースの特 色など、いずれも本学の



8月下旬から9月中旬にかけて弘前市・青森市・滝沢市の 商業施設で実施、10月22日・23日には八戸市庁前広場を中 心に行われたまちなか学園祭(八戸工業大学学園祭)にあわ

せて、八戸市美術館で開催された。

今後は、番町サテライトキャンパス (ばんらぼ) にピック アップされたポスターを常設展示することを検討している。





#### 〇受賞者一覧

#### 〈優秀賞〉

「無信号型横断歩道歩行者通知システム」

駒井 南海 (NHK 学園)、齊藤 麟 (弘前中央高) 佐々木蓮音(岩手・盛岡工高)、下斗米崇紀(八戸北高) 「ブレーキングインジケーター」

根市 侑汰 (八戸工高)、竹内 舜 (青森工高) 若林 佑斗 (八戸工大一高)

#### 〈佳作〉

「歩行者信号のない信号の点滅」

鈴木 惇椰 (八戸工高)、小松 大洋 (八戸工高) 売井坂 翼 (八戸東高)

「横断歩道事故防止センサー」

佐藤 凌太 (大湊高)、中嶋 翼 (弘前実高)

藤島 駿輝 (秋田・角館高)

# エネルギー環境教育出前講座



9月6日、野辺地小学校と若葉小学校を会場に、野辺地町 エネルギー・環境教育実践事業を実施した。

この事業は野辺地町の小学校5年生等を対象に、省エネル ギーや環境教育の理解を深めるため、町と本学が共同で平成 21年度から実施している。新型コロナウィルス感染症の影響 でしばらく中止となっていたが、今年実に3年ぶりの開催と

当日は、工学部電気電子通信工学コース/電気電子工学科 の学生6名も参加し、「超伝導、放射線を見てみよう、人力 発電で電気を作ろう、ペットボトル風力発電機をつくろう」 の4テーマを行った。

参加した児童たちは、エネルギーや放射線などをより身近 な話題として感じることが出来た様子で、今後この体験を生 かして省エネルギーや環境により関心を持ち、地域を牽引す る人材が育ってくれることを切に願う。

工学部 准教授 佐々木 崇徳・花田 一磨

# 苍穹 八戸工業大学

### 卓球部、全国大会へ

8月22日~24日、2022 年度秋季リーグ戦・第88 回全日本学生予選大会 (花巻市) が開催された。 男子 I 部リーグは3位、 大澤陽斗さん(機械工学 科3年/東奥学園高)が シングルス・ダブルス、



安達朋晶さん(土木建築工学科3年/北海道・駒大苫小牧高) がダブルスで全国大会の出場権を獲得した。

また8月26日~28日、第49回東北総合体育大会卓球競技 (三沢市) が開催され、青森県代表大澤翔吾さん (土木建築 工学科4年/東奥学園高)の活躍もあり、10月1日~5日開 催のとちぎ国体(栃木県)の出場権を獲得した。

卓球部 監督 塩入 彬允

# 第49回東北総合体育大会に出場!

8月20日・21日、第49回東北総合体育大会バレーボール 競技(青森市)が開催された。成年男子青森県代表として、 本学から竹内舜さん(機械工学科4年/青森工高:写真後列右 から4番目) と谷口慶真さん (機械工学科2年/むつ工高:写 真後列左から2番目)が出場した。両名は主力選手としてチーム に貢献したが、今大会優勝の山形県チームに大接戦の末準決 勝で破れ、とちぎ国体出場を逃した。

バレーボール部 監督 黒滝 泰世



# -クル紹介

# ソフトテニス部

現在部員は男子13 名女子3名、平日は 週3日間、休日は部 員が集まれる場合に 活動している。普段 は大学内にあるテニ スコートでストロー クやボレー、スマッ



シュなどの基礎練習から攻守の入れ替えを素早く行う応用練 習、ゲーム形式での練習を行っている。

毎年春と秋に行われる八戸市内クラブ対抗リーグ戦では全 8部リーグ総勢70チーム中の1部リーグに所属し、優勝経験 も複数回ある。令和元年度には東北予選を通過し全日本学生 ソフトテニス選手権大会に出場、3回戦進出を果たした。今 後も各種大会で入賞できるよう日々の練習に励みたい。

> 部長 工学科4年 中嶋 翼(弘前実高)

#### 硬式野球部、 二部リーグ2位

10月1日、北東 北大学野球秋季二部 リーグ戦、8勝2敗 の首位で並んだ青森 公立大学と優勝決定 戦が行われ、本学は 惜しくも2位となっ た。一部リーグ昇格



左から田端・加賀谷・横山・若松・荒川

を目指し、春季リーグ後から練習を積んできたが、あと一歩 及ばなかった。来季は今年度経験を積んだ下級生が活躍し一 部リーグ昇格することを期待したい。 部長 大室 康平

#### <個人賞受賞者>

優秀選手賞:横山秀太(4年/青森明の星高) 首位打者:田端陸玖(1年/八戸工大一高)

ベストナイン (内野手): 若松凛 (3年/秋田・秋田修英高) 同(外野手):加賀谷光(2年/秋田・金足農高)、田端陸玖 同(指名打者): 荒川晟(2年/岩手・盛岡工高)

# ET ロボコン2022全国大会に出場決定

9月23日に開催された ET ロ ボコン2022東北地区大会におい て、工学部システム情報工学コー ス山口広行准教授の研究室チーム 「ヒット&ラン」が、「総合準優 勝 | 「ゴールドモデル賞 | 「IPA 賞 | を受賞し、5年ぶり5度目となる 全国大会への出場権を獲得した。

この大会は、指定されたロボッ トに各チームが分析・設計したソ フトウェアを搭載し競うもので、



今年は全国から201チーム(内、企業は92チーム)が参加。 山口研究室は ET ロボコンへの参加を通してソフトウェア 開発技術者の育成を目指しており、同大会には2008年より 出場。今年は、昆野幹人さん(岩手・遠野高)進藤胤真さん (十和田工高)、柳沢元就さん(八戸工高)が参加した。

# ンド染織研究家による講演会



8月30日、本学 KD プ ラザにおいて、インドの染 織研究家マニート・カウー ル博士 (写真左) による講演 会(川守田研究室「菱刺し ラボ」主催)を開催した。 通訳を本学高橋史朗国際交

流センター長が担当し、学生や教職員、南部菱刺し教室の製 作者らが参加し、インドの染織文化について学んだ。

マニート博士はインドの大学でテキスタイル科の修士・博 士課程を修了し、インドの様々な伝統的染織物を研究してき た。このたびの来日は公益財団法人石橋財団の助成によるも ので、日本の刺し子文化について調査研究を行うとのこと。

講演会では、出身地であるパンジャブ州の「フルカリ」を 中心に、研究の契機となった祖母の刺繍や自身の作品を紹介 しながら、これまでの研究成果を発表した。フルカリは農生 活と密接な関わりがある点や女性のコミュニケーションや美 の表現手段である点が南部菱刺しと共通しており、非常に興 味深い内容であった。

感性デザイン学部 准教授 川守田礼子 (写真右)

### |科学の祭典2022

8月6日 · 7日、 本学教職員・学生・ OB有志が今年も「青 少年のための科学の 祭典 2022」八戸大 会に出展した。時間 限定の事前予約制で 市内小学生に限っ ての開催ではあった



「コイルのトンネルに電車を走らせよう!」 写真提供:鉄道研究会

が、子どもたちは目を輝かせて普段目にすることのできない 実験や体験、工作などを楽しんでいた。

### 学内インキュベーション

企業などの研究開発 に利用いただくため、 2号館3階の研究室を レンタルラボ(貸し研 究室)として提供する こととした。青森県及 び八戸市の誘致企業で ある株式会社トイ(本 社 東京都目黒区)様 に本年6月から2室を



賃貸している。今後、産学連携によるインキュベーションは もちろんのこと、学生とのコラボレーション、キャリア支援 及びベンチャー設立の機運が高まることが期待される。

# 保護者懇談会

9月3日~11日の週末を利用し、八戸市、弘前市、青森市、 盛岡市、秋田市、仙台市の6会場で保護者懇談会が開催され た。対面での個人面談は、2年ぶりとなる。会場を訪れた保 護者は、学科の教員から子弟の修学状況や学生生活等につい て説明を受けた。会場には相談コーナーも設けられた。

また、当日来場できなかった保護者を含め9月末まで教員 との電話懇談が行われた。



## オープンキャンパス開催

8月6日・7日、今年のオープンキャンパスが事前予約制 で実施された。

生徒の皆さんは概要説明の後、希望の学科・コースへ移動 し、研究設備や装置に触れたり、学科・コース毎の研究や学 習内容、取得可能な資格等の説明を聞いたりと、その眼差し は真剣そのもので「実際に参加できて良かった」「見たこと もない装置や機器に触れ、見ることができて良かった」など、 うれしい感想をいただいた。

同伴の保護者は、入試部長による説明会に参加、個別相談 コーナーで質問や疑問、学生生活や経費について相談をして 入試部課長 奥 いた。 正克



# 2023年度入試日程

入試区分		願書受付期間(必着)	試 験 日
総合型選抜試験	第2クール	11月16日(水)~11月25日(金)	12月3日(土)
	第3クール	1月23日(月)~2月1日(水)	2月13日(月)
	第4クール	2月27日(月)~3月3日(金)	3月8日(水)
学校推薦型選抜試験 (指定校制)「専願」		11月4日(金)~11月10日(木)	11月19日(土)
学校推薦型選抜試験 (公募制)「他大学との 併願を認める」		11月28日(月)~12月6日(火)	12月14日(水)
一般選抜試験	前期	1月4日(水)~1月20日(金)	2月2日(木)
	後期	2月13日(月)~2月23日(木)	3月3日(金)
大学入学共通 テスト 利用選抜試験	前期	1月4日(水)~1月20日(金)	- 2023年1月14日(土) 1月15日(日)の 大学入学共通テスト
	中期	2月1日(水)~2月13日(月)	
	後期	2月27日(月)~3月13日(月)	
社会人特別選抜試験	・前期	11月16日(水)~11月25日(金)	12月3日(土)
外国人留学生 特別選抜試験			
	後期	2月27日(月)~3月3日(金)	3月8日(水)
帰国生特別選抜試験			

# 主な予定(11月~1月)

※予定変更の場合があります。大学 HP でご確認ください。

5日・6日 彩才祭(文化会) 11月

19日 学校推薦型選抜試験(指定校)

12月 3日 総合型選抜試験第2クール

3日 社会人特別選抜試験

12月 3日 外国人留学生特別選抜試験

14日 学校推薦型選抜試験(公募制)

27日~1月4日 冬季休業 (学生)

28日~1月3日 年末年始大学窓口休業

14日~15日 大学入学共通テスト 1月



9月2日、八戸市東運動公園陸上競技場において、第64 回体育祭が開催された。

「輪勝威(わっしょい)」(制作2CA)のスローガンのもと、各 軍3年生がリーダーシップを発揮して団結、総合優勝を目 指し競技に取り組んだ。観覧席には多くの保護者が来場し、 生徒たちの一生懸命取り組む姿に大きな拍手を送っていた。 男子総合は黄軍、女子学年対抗は3学年がそれぞれ優勝

楽しい雰囲気と生徒たちの笑顔が光る素晴らしい体育祭 となった。











# 体験入学



8月3日~6日に かけて、体験入学を 行った。来校した中 学生は、普通科と工 業科に分かれ、それ ぞれの特徴を活かし たプログラムを体験 した。

普通科特進コースではスタディサプリの体験、公務員 コースでは公務員試験の問題に挑戦、スポーツ進学コー スでは筋肉の仕組みをそれぞれ体験した。工業科建設 コースでは実際の現場で使われている壁の補修技術の実 演・体験、電気コースでは電気実験を実演した。

参加した中学生は「勉強も部活もすごく楽しそうだっ

た|「工業科の各 コースの勉強がお もしろそうで、興 味がわきました」 と笑顔で応えてく れた。中学生に とっては貴重な経 験となったようだ。



# 第1回部活動体験見学会

8月6日、第1回部活動体験見学会を開催した。164 名の中学生が参加し、本校の取り組みに対する関心の高 さが感じられた。サッカーやバスケットボールなどの経 験ある運動部をはじめ、アーチェリーや自転車競技、ラ グビー、ダンスといった中学校にはない部、吹奏楽部や 写真部などの文化部の体験も行った。

参加した中学生は本校生徒と交流しながら楽しそうに 体験し、帰りには満足した表情が見られた。アンケート には「先輩たちの挨拶が素晴らしかった」「雰囲気が良 かった」「分かりやすいアドバイスでした」などの感想 があった。









# TECHツアー

9月21日、NPO法人地域活性化教育支援ネットワーク の協力を得て1年工業科が八戸市内の工場見学会「TECH ツアー」を実施しました。エムエス工業㈱、旭光通信シス テム(株)、(株)菅原ディーゼル、(株)ほくとう、北辰工業(株)、馬 淵川橋梁新設工事の中から生徒が自分で選択した企業へ赴 き、工場施設や仕事の様子を見学し、現場で働くプロフェッ ショナルたちの体験談や仕事観を学ぶことで「働くこと」 について考えを深めることができました。

参加した生徒は「工場内は清掃が行き届き、社員の方々 も真剣に作業をしていて素晴らしいと思いました」、「ベテ ラン作業員の方が進路決定のアドバイスをしてくれて、と ても参考になりました」と感想を述べていました。

この経験を2年進級時のコース選択に活かしてほしいと 工業科長 上野 毅稔 思います。











### SDGs講演会・ワークショップ

# 持続可能な世界のために何ができるか?





8月31日、東北ESD活動推進支援 センター (仙台市) 小泉照氏を講師に お招きして、1・2年生を対象に SDGs講演会を行った。これは本校が 登録している地域ESD活動推進拠点 の活動の一環として行ったものであ り、2年ぶりの開催となった。

今年度は「気候変動」をテーマに、 現在世界が直面している異常気象の増 加やその影響、気候変動が私たちの暮 らしに与える影響などについて学ん だ。昆虫食の紹介もあり、生徒たちは 興味深そうに聞き入っていた。講演終 了後には、希望生徒35名が参加して ワークショップを開催。「サスティナ ブル商店街を作ろう」と題して、生産 者や販売者がどのような気候変動対策 に取り組んでいるかを学び、またもし も自分が生産者や販売者ならばSDGs

達成のために何ができるかについてアイディアを出し合った。

参加した生徒たちは「考えていたよりも気候変動の影響が大きくて驚いた。 日常生活から意識することが大切だと感じた」「グループワークでは、話し合 うことで様々な意見が生まれたり、意見を共有することでアイディアが広がる ことを感じられて楽しかった。食品ロスの削減など今日からできることもある とわかったので実行していきたい」などと話していた。

# 「ユネスコスクール・ キャンディデート」に 認定されました

本校は9月2日付で文部科学省より 「ユネスコスクール・キャンディデー ト」として認定された。

ユネスコスクール・キャンディデー トは国内審査を終えユネスコ本部にユ ネスコスクール正式認定申請中の学校 で、青森県内の高校では3校目であ る。ユネスコスクールは、ユネスコの 理念を実現するため平和や国際的な連 携を実践する学校で、SDGs達成のた め、ESD (持続可能な開発のため) の教育の推進拠点としても位置付けら れている。

本校は国内のユネスコスクールの ネットワークに加入し、各種研修会や 大会、他校との交流などに参加してい く。「世界基準」を新たな校是に、社 会や世界に貢献する学校として邁進し ていきたい。



# 助け合いの気持ちを広げよう ~ ウクライナ支援募金 ~

8月3日、2学年総合学習で「子ども食堂をやろう」 というテーマで活動している生徒らが洋野町役場を訪問 し、町に避難しているレーナ・ロガチョワさんらウクラ イナ人家族に支援金を寄付した。この日は直接支援金を 手渡した後に、一緒に習字に挑戦し、日本文化の体験を

なおこの支援金は、7 月に行われた文化祭と体 験入学で募ったもので、 生徒や保護者、体験入学 に参加した中学生とその 保護者の方々から合計 3万円ほどが集まった。

通じて交流を深めた。



# 異文化理解・英語力向上プログラム

9月17日、異文化理解・英 語力向上プログラムに希望生 徒が参加した。

この活動は、階上町の海岸 および観光地に足を運び、訪



れた場所を地域の環境・文化的観点から理解し、SDGsの11「住 み続けられるまちづくりを」・17「パートナーシップで目標を達 成しよう」について考えることを目的としている。

生徒たちは、階上町産業振興課商工観光グループのニコラス・ ローレンス・スワンソン氏から英語で説明を受けながら、小舟戸 海岸を始めとした観光地を散策した。参加した生徒は、「英語で 地元についての説明を聞いたからか、新鮮な気持ちで地元の観光 地について考えることができた」と話した。



り組もうと、本校生徒がフェアトレー ド商品の販売を行っている。生徒らは 国際協力について学びを深めるため、 Zoomミーティングを活用してNPO法 人LOOB JAPANの理事である吉永幸

子氏とピースウィンズ・ジャパン海外 事業部モンゴル担当の大石雅美氏の講 演を聴講した。

この学びから、ピースウィンズ・ ショップの協力を得て文化祭と体験入 学でフィリピンの方が手作りした雑貨 製品と東ティモールの小規模農家が生 産したコーヒー販売の実践を行った。



### 仙台地区大学見学会

# 進路選択の幅を広げよう

7月27日・28日に 1学年一貫コース、 進学コース及び2 学年一貫コース、S C・ACクラスの生 徒が参加して、仙台 地区大学見学会を 行った。



生徒たちは、東北

大学を含む国公立・私立合わせて6大学の中から希望する大 学を訪問し、校舎見学やゼミ見学、模擬授業などを体験した。 参加生徒たちは、「様々な大学や学びに触れたことで大学生活 の具体的なイメージを描くことができた。他の大学について も調べてみたい」と話した。

### ジオパークツーリズム



9月12日、 三陸ジオパー クツーリズム が実施され、 希望生徒が参 加した。蕪島 から種差海岸 芝生地までの 約 8 kmを完 歩した。

ジオとは、「地球、大地、地理や地質」を表す言葉である。 生徒は事前学習として、ジオパークとは何か、三陸の五億年 の歴史や風土、八戸エリアの見所や過去の地震・津波災害な どをレポートにまとめての参加であった。従来の観光地とし ての魅力に加え、知的好奇心をくすぐる大地の魅力という視 点からもツーリズムを堪能した。

# 途上国に文房具を贈ろう

7月、2学年の探究活動の一環で、途上国の子どもたちに 文房具を送る活動を行った。この活動は2年前の3年生有志 がスタートさせたもので、それを引き継いだもの。

校内に文房具の寄贈を呼びかけ、集まった文房具はNGOを通

じて途上国へ発 送する予定。残 念ながら発送で きない文房具は、 学童保育園を通 じて地域の小学 生へ寄贈する。

活動にご協力 くださった皆様、 ありがとうござ いました。



### 六ヶ所村次世代エネルギーパーク見学

8月10日、六ヶ所村次世代エネルギーパーク見学を実施し た。六ヶ所村には、風力・火力・原子力・再生可能エネル ギー・核融合エネルギーといった、現在を支え未来を創るエ ネルギーの関連施設が集まっている。生徒は環境科学技術研 究所と六ヶ所核融合研究所の2カ所を見学。身近な場所に国 内最先端の研究施設が存在し、国際的な共同研究が行われて いることを知ることができた。参加した生徒は「今勉強して いるSDGsと関連付けて見学することができた」と話した。





### HIT-SSP

8月2日・3日、1・2年生対象に「HIT-SSP(八戸工業 大学サマー・サイエンス・プログラム)」が開催された。今年 度のSSPは工学部と感性デザイン学部、基礎教育研究センター から12講座が開講された。生徒は興味のある分野を選び、そ れぞれの講座に分かれて受講した。

普段の高校生活では学ぶ機会が少ない専門的知識に触れ、 先端技術を交えたプログラムを体験。工学部の枠に囚われな い2日間の体験を生徒らは満喫していたようだ。



### 医療学概論出前講義

10月7日、メディカルカレッジクラスを対象に医療学概 論出前講義を行った。「障害者スポーツと障害児教育につい て学ぶ」と題し、八戸第二養護学校の小野裕樹氏を講師とし て迎えた。

障害がある人に対し、「ダメ、無理」とせずに「これはどう ですか」と違う方向から手助けができる人が必要であること、

困難は人によって様々で あるため、それを理解す るには実際に経験してみ なければならないという ことを学んだ。参加した 生徒は「お互いのことを よく考えて、思いやりの ある行動をとっていきた い」と感想を述べた。



### 〜地元のアートやデザインに学ぶ〜 第**1回校外学習**

9月21日、第1回校外学習を行った。総合的な学習の時間 の一環として、近郊の美術館や博物館等を見学し、アートや デザインの世界に触れた。

はじめに十和田市現代美術館を訪れ、現代アートの作品 を見学した。美術館前の官庁街通りや広場にも、ユニークな アート作品が点在しており、美術館に入る前から、屋外展示 のアートに目を奪われた。一方、館内では、実験的な作品や



# ~全国へ向けてチャレンジ~ 第10回科学の甲子園ジュニア

8月6日、青森県 総合学校教育セン ターにて、第10回科 学の甲子園ジュニア 青森県大会が実施さ れた。私立・公立中 学校9校、計16チー ムが出場し、理科や



数学など複数分野から出題される筆記競技と実技競技を 競った。

本校は開校以来毎年参加しており、今年は1年生と2年 生各代表チームが参加した。大会一番の課題である実技競 技は、厚紙やアルミホイル、豆電球など限られた材料を使 用し、味方に暗号をモールス信号で送り、その速度と正確 さを競うという内容であった。

両チームとも練習と本番との環境の違いに対応すること が難しく入賞できなかったが、結果を受け止めると同時に、 来年度入賞への意欲を高める前向きさを見せていた。

意外性を持ったインパク トのある作品が多く、生 徒は枠にとらわれない作 品の世界を楽しんでいた。

後半は、北インター 工業団地にあるツカハラ ミュージアムを見学した。



数多くのクラシックカーやフォーミュラニッポン試作車など、 様々なタイプの自動車を見学することができ、エンジニアが 自身の技術を駆使して、ものづくりをしていることを学んだ。 生徒は、「作品を制作している人の想いや理想などを色んな 形で表現していて面白かった|「ものづくりは、自分が個性 を表現するだけではなく、作品を見ている側のことも考える ことが大切だと思った」等、述べた。それぞれの捉え方で芸 術に触れる良い機会となった。

### ~夏の生徒募集活動~ プログラミング教室とものづくり体験教室

生徒募集活動の一環として、八戸工業大学小玉教授プロ デュースによる「プログラミング講座」(7月30日)と、 田子小学校教頭久保先生を講師に「ものづくり体験教室」 (8月6日・20日)が開催された。

「プログラミング講座」では、参加した小学生が小玉教 授から専門的でかつ理解しやすい説明を受け、自らプログ ラミングしパソコンソフトを動かし楽しんでいた。(写真) 「ものづくり体験教室」では、モーターや磁石を使ったも のづくりを体験してもらった。子どもたちが様々な工夫を 凝らして作ったおもちゃを動かし、楽しんでいる姿が印象 的だった。保護者対象学校説明会も同時開催された。





#### 創立 50 周年記念事業寄付金のお願い

本学創立50周年を迎え、改めて学生と共に地域社会 への貢献及び新たな課題への取り組みを続けるため、 教育研究活動、学生に係る教育環境及び修学等にご支 援を賜わりたく、寄付金(1口5千円より)をお願い しております。

詳しくは本学 HP サイトをご覧下さい。 https://50th.hi-tech.ac.jp/

### 理事会・評議員会

#### ◇7月29日 理事会

- ・学校法人八戸工業大学「教職員の採用計画」に関する件
- ◇9月16日 理事会・評議員会
- ・さくら幼稚園「園則」変更に関する件
- ・さくら幼稚園「子ども・子育て支援新制度への移行」に 関する件
- ・任期満了に伴う役員・評議員の選任に関する件
- ・理事長の選任に関する件
- ・副理事長の選任に関する件

表 紙 さくら幼稚園 海浜保育

